

認知症の予防・改善の方法は人によって異なる

新型コロナ、パンデミック、PCR と耳慣れない言葉が飛び交うようになりました。PCR とは、polymerase chain reaction「ポリメラーゼ連鎖反応」の略で、鼻の粘膜などから DNA を採取し、その DNA から「ポリメラーゼ連鎖反応」によって大量のコピーを作り、検査キットに乗せたウイルスの DNA 配列と結合するか否かでコロナウイルスの存在を判定します。このようなゲノム技術は、1980年代からのヒトゲノム計画によって大きく進歩しました。PCR の検査キットに大量の DNA 断片を乗せたマイクロアレイ技術によって、約 30 億の塩基対からなるヒトの DNA 配列が解明されました。さらにマイクロアレイは進歩して、現在では数 100 万個の DNA 配列を一度に検査できます。

マイクロアレイ技術の進歩は医療に革命をもたらそうとしています。認知症は、糖尿病やガンと同じように、リスクと発症が必ずしも相関しない多因子性疾患のジャンルと考えられています。例えば、アルツハイマー病（以下、AD と言います）の原因たんぱく質はアミロイドβたんぱく質（以下、Aβと言います）ですが、Aβの存在とADは必ずしも相関せず、Aβをターゲットにした医薬品開発は順調に進んでいるとは言えないようです。マイクロアレイ技術によってADリスクと関係する多数の変異が見つかりましたが、これらの中で、Aβと関係付けられるのはアポリポタンパク質の他、わずかしかなかった^{2,3)}。このことから、AD は多因子性疾患であると言えます⁴⁾。個人のゲノムも容易に分かるようになり、個人に合わせたオーダーメイド医療が始まろうとしています。認知症も、その人に合った予防や改善のメニューが提示され、認知症の恐怖から逃れられる日が来るかもしれません。

しかし、現在の高齢者やその予備軍にとっては待ったなしです。認知症の最大のリスクは高齢で、年齢別の認知症の割合は、60代では2%以下ですが、85才以上になると約30%と増加します⁵⁾。近年、年齢別の認知症発症率は欧米では減少していますが、日本人の場合は増加している稀なケースと言われています⁶⁾。生活の質の向上によって年齢別の認知症の発症率が減少することは理解できますが、欧米と比べ、生活の質が低下しているはずはない日本人の発症率が上昇している理由は、どこにあるのでしょうか。

特定成分を含むガーデンアンゼリカ根の抽出物に、米ぬか由来のフェルラ酸を配合した ANM176[®]は、漢方生薬のトウキに含まれる Aβ 神経毒性抑制成分の研究が基になって開発されました⁷⁾。この研究で、トウキには 13 種の Aβ 神経毒性抑制成分が含まれていることが分かり、これらの最も効果的な 176 番目の組合せをベースに、Aβ 神経毒性抑制成分を規格化した食品用製剤 ANM176[®]が開発されました。また、一般のトウキには、この Aβ 神経毒性抑制成分が安定的に含まれていないことも分かりました。ANM176[®]は Aβ 神経毒性抑制成分の含量が規格化され一定量に管理されています。この 13 成分の中で、ガーデンアンゼリカ根に含まれる抗炎症成分とフェルラ酸が重要です。この 2 つの成分は、欧米人では食事から摂取できていますが、日本人の場合は不足している可能性があります。

認知症にならないように予防に心がけることが重要ですが、認知症でも穏やかな暮らしが望めます。ANM176[®]は、使用者の全員に有用ではありませんが、ANM176[®]の効果を臨床で確認した試験で、使用開始から9ヵ月後では、軽度であれば約8割が、重度であっても30%が改善しました。【右表】

アルツハイマー病の患者に ANM176 [®] を使用した9ヵ月後の使用開始時と比較して認知機能が改善あるいは悪化した例数とその割合（中村重信他 ⁸⁾ 改変） 「単独」は ANM176 [®] だけを使用、「併用」は1年以上使い続けて効果が失われたアリセプト [®] に ANM176 [®] を併用									
開始時の進行程度	改善数			悪化数			改善割合 (%)		
	単独	併用	計	単独	併用	計	単独	併用	全体
軽度	7	16	23	2	21	23	78	43	50
中等度	4	9	13	3	9	12	57	50	52
重度	0	8	8	3	16	19	—	30	30
全体	11	33	44	8	46	54	58	42	45

ANM176[®]の効果が発揮されるには安定的な長期使用が重要です。ANM176[®]の安定的な使用を奨励する「ANM176 利用者アフターサービス」（以下、アフターサービスと言います）の連絡事項には、穏やかな生活ができているという感想が数多く寄せられています。アフターサービスは、無料で利用でき、定期的なアンケートの結果から自分自身に対する ANM176[®]の効果を確認することができます。

【アフターサービスの問い合わせ先：本紙脚部記載】

文献

- Selkoe DJ, Hardy J. *EMBO Mol Med.* (2016) 8(6):595-608
- Asanomi Y *et al.*, *Mol Med.* (2019) 25(1):20
- Desikan RS *et al.*, *PLoS Med.* (2017) 14(3):e1002258
- Xu W *et al.*, *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* (2015) 86(12):1299-306
- 朝田隆 臨床神経 (2012) ;52:962-4
- Prince M *et al.*, *Alzheimers Res Ther.* (2016) 8:23
- Yan JJ *et al.*, *Biol Psychiatry* (2004) 28:25-30
- 中村 重信他, *Geriatr. Med.* (2008) 46:1511-9